

この壺は満杯か？

副校長 我妻 智之



ある大学でこんな授業があったという。

「クイズの時間だ」教授はそう言って、大きな壺を取り出し教壇に置いた。その壺に彼は一つひとつ大きな石を詰めた。壺がいっぱいになるまで石を詰めて、彼は学生に聞いた。

「この壺は満杯か？」

教室中の学生が「はい」と答えた。「本当に？」そう言いながら教授は、教壇の下からバケツいっぱいの砂利（じゃり）をとり出した。そして壺の中に流し込み、壺を振りながら、大きな石と石の間を砂利で埋めていく。そしてもう一度聞いた。

「この壺は満杯か？」

学生は答えられない。一人の生徒が「多分違うだろう」と答えた。教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出した。それを大きな石と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけた。

「この壺はこれでいっぱいになったか？」

学生は声をそろえて、「いや」と答えた。

教授は水差しを取り出し、壺の縁までなみなみと注いだ。彼は学生に最後の質問を投げかける。

「僕が何を言いたいのかわかるだろうか」

一人の学生が手を挙げた。

「どんなにスケジュールが厳しい時でも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込む事は可能だということです」

「それは違う」と教授は言った。

「重要なポイントはそこにはないんだよ。この例が私達に示してくれる真実は、大きな石を先に入れな
いかぎり、それが入る余地は、その後二度とないという事なんだ」

君たちの人生にとって”大きな石”とは何だろう、と教授は話し始める。

それは、仕事であったり、志であったり、愛する人であったり、家庭であったり、自分の夢であったり…。ここで言う”大きな石”とは、君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君達はそれを永遠に失う事になる。

もし君達が小さな砂利や砂や、つまり自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしていけば、君達の人生は、重要でない「何か」に満たされたものになるだろう。そして大きな石、つまり自分にとって一番大事なことは入らなくなる。

【参考】『会社がなぜ消滅したか』（読売新聞社会部／新潮文庫）の「文庫版あとがき」から

身につけておかななくてはならない「大切なこと」は、できるだけ早く自分の中に定着させないといけません。上のお話は、「人生における優先順位」について語るときに紹介される有名なエピソードですが、中学生の皆さんにとって自分の心の中に入れるべき「大切なこと」とは何でしょうか。「興味をもって自ら進んで学習に取り組む姿勢」や「粘り強くあきらめないで挑戦する態度」、「自分を大切にすること」、「多様性を認めながら他者を思いやる気持ち」等々。台中生活の中で、大切なことを一つひとつ積み上げて、自分の力にしていきましょう。

中学校生活の中で、たくさんのご経験を、多くのことを学んでいる台中生の皆さん。コロナ禍の影響を受けながらも、精一杯、今できることに明るく元気に取り組んでいる姿にいつも感動をもらっています。そして、3年生の皆さんにとっては、義務教育の集大成である卒業式が近づいてきました。自分が身につけた「一番大切なもの」を胸に、大きく羽ばたいていってください。

1, 2年生の皆さんもあと一か月で進級です！

みんな、一日一日を大切に。

3年生の皆さん ご卒業おめでとうございます
～ 皆さんは、日吉台中学校の大切な卒業生です ～

在校生より卒業生の皆さんへ



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。先輩方は、日吉台中学校の最上級生として、私たちに良き手本をいつも見せてくださいました。そんな先輩方は私たちにとってあこがれの的であり、いつも目指してきました。

思い出せばたくさんの方がいました。入学したての頃、新型コロナウイルスの影響でなかなか人と会えず、とても不安な日々を送っていました。先輩方はそんな私たちを導きリードしてくださいました。そのお陰で私たちは不安でいっぱいだった中学校生活が、楽しくて仕方なくなりました。

6月の体育祭では、先輩方が全力を出して競技に取り組み、強い団結力があったのが印象的です。心を一つにして跳んでいた大縄跳び。クラスで力を出し切った綱引き。そして仲間を励まし、応援する姿。私たちはその姿を見て、熱い思いが伝わり、私たちも先輩のようになりたいと思いました。

文化祭は、例年と違う形で行われましたが、様々な工夫をされ、楽しませてくださいました。ハンドベルでの演奏が校内放送で流れたときは、合唱曲とは違う感動がありました。また展示・演示では先輩方の素晴らしい作品の数々が見られました。時間をかけて先輩方が作り上げたものは、私たちの心に残るものになり、先輩方の思いが伝わりました。

また、部活動や委員会活動でも多くの関わりがありました。委員会では、初めてで緊張している私たちに優しく話しかけて緊張をほぐしてくださったのは先輩方でした。そして、分からないことがあったら優しく教えてくださいました。部活動では、先輩方が率先して部活動を引っ張ってくれました。慣れない学校生活を安心して過ごすことができました。

私達はいつも先輩方の姿を目指してきました。けれどもお別れの日が近づいてきてしまいました。そして4月からは私たちが最上級生になります。私たちは先輩方の姿を目指して、受け継いできた伝統を、守っていくことを約束します。どうか安心して、次のステージでも頑張ってください。私たちは全力でその姿を応援します。どんな困難なことがあっても、持ち前の優しさで真剣さで乗り越えていくことを信じています。

最後に、先輩方のご健闘と今後の活躍をお祈りし、送る言葉とさせていただきます。

三年生の皆さん、いままで、本当にありがとうございました。



令和三年度 在校生代表
竹村 澄晴



【卒業式当日について】

保護者 受付開始 8:40～ 座席は抽選済みです
(防寒対策とマスクの着用をお願いします。)
卒業生 教室集合 9:00 出欠確認
卒業証書授与式 9:30 卒業生入場開始
(在校生は15:00まで自宅学習となります)